

半世紀前からの

「今、蘇る『文集』」

贈り物

蒲郡市民間大使
内田雅敏氏（永竹町生まれ、東
京弁護士会所属）のエッセイ

前号のあらすじ

最近、内田氏に蒲南小2年
のときの文集が届きました。
当時のことが思い起こされま
す。クラス分けは、4月から生年
月日順で、雪、月、花、松、竹の5
クラス。雪組だったことを思い出
した内田氏が胸躍らせ文集を
開くと目に飛び込んだものは…。

—いつつぼしまえがき—

「先生文集を作ってみてはどう」
「なんのために出すのかね」
「僕たち教師は、子どもを知ら
なくてはならない」
「そうだわ。子供をより深く
知るには綴方が一番いいわ」
……中略……
「クリスマスの贈り物として

はどうか」

「とてもだめだ。学期末の多
忙な時そんなことができるか」
「やればできる。我々の熱さ
えあれば」

こんな話が11月中旬の学年
会の席で文集を出すことにな
りましたが、……。以下略

文集作成にかける教師たち
の熱い思いが伝わってくる。
クラス、男女の別に関係な
く、全児童が混合で「お母さ
ん」「花」「犬」「ねこ」「お正

月」などなど題名ごとに編ま
れており、ところどころに
カットも入れられ読みやすい
ように工夫されている。表紙
には赤子をおぶったねえやの
絵。教師の誰かが書いたもの
だろうか。

つづく



みんなで考えまい！

蒲郡のまちづくり

『都市計画マスタープラン』

蒲郡って、昔に比べて道路
や埋立、区画整理などで
ずいぶん変わったんだよね。

そうだのん、昭和29年に
市が誕生してから、海岸
も道路もまちなみも、大きく
様変わりしたのん。昔は砂浜
がいつぱいあってな、みんな
海水浴を楽しんだもんじゃ。



なんで、砂浜がなくなっ
ちゃたの？



すなメリーは、昭和34年
9月の「伊勢湾台風」のこ
とを知っとるか。それはすご
い台風じゃった。夜は市内全
部が停電し、市内28カ所で堤
防が壊れ、おまけに海岸一帯
が高潮に襲われたんじゃ。高



みかん仙人
すなメリー

潮は何と3mもあつたんじゃ。
千軒を超える家が壊れ、家へ
の浸水も多くて、田んぼも船
もやられてな、被害総額は当
時のお金で28億円だけな。ほ
んで、翌年から高潮や津波か
らの被害を防ぐために、三谷・
形原・蒲郡の港に堤防をつく
り始めたんじゃ。だで、砂浜
がなくなってきたんじゃ。
蒲郡は、山に囲まれて平地
が少ないでな、少しづつ海が
埋め立てられてきたのも、理
由の1つじゃな。



砂浜がなくなつて
海岸も変わったんだね。
砂浜だけでなく、塩津で
塩田がなくなつたとか、
埋立で三谷まつりの海中渡御
がなくなつたりと、「海の眺め
は蒲郡」と言われた海岸一帯
の景観が大きく様変わりした
んじゃ。けどな、みんなが安
心して暮らしていけるまちを
つくるのが一番だで、しょ
うがないのかのん。んでも、
砂浜がなつかしいのん。

【計画開発課】 ☎66-11142